

エコ通勤社会実験

～マイカー通勤からEcoバイク『旅チャリ』通勤へ～

株式会社JTB首都圏 首都圏交流事業推進室 高知尾 昌行

2009年9月1日より、㈱JTB首都圏では「平成21年度モビリティ・マネジメントによるエコ通勤社会実験」の取り組みを始めた。

この実験は、環境省が推進する「京都議定書目標達成計画」にも位置付けられている通勤交通マネジメントに関し、モビリティ・マネジメント(MM)によるエコ通勤に取り組む企業等に対し社会実験の支援を行うものである。㈱JTB首都圏が取り扱うEcoバイク『旅チャリ』を活用してエコ通勤を行ってもらう。

今回の実験では4社5事業所の協力が得られた。本稿では今回協力事業者のうち最も実験規模が大きい株式会社オキナヤ本社での状況を取り上げる。

株式会社オキナヤは埼玉県の北部、熊谷市江南中央にある産業システム機器と建設資材を扱う商社である。BtoBでの事業が中心の為、事業所は町中に置く必要がなく、熊谷駅から約6kmと距離があり、約80名の本社勤務従業員の9割がマイカー通勤である。

今回、実験に参加したのは14名。最も通勤距離が短い人で片道2.1km、最も長い人は片道10kmである。9月1日～11月30日までの3ヶ月間、実験参加者はこの距離を電動自転車で通勤する事となる。また、本実験では電動アシスト自転車を使用している。そのため、通常の自転車に比べ、通勤時の負担はかなり軽減されると思われる。電動の為、CO2排出量はゼロとはならないが、一般的なガソリン乗用車と比べれば約98%の削減となる。



実験を行うにあたり、参加者のモチベーションの向上施策も合わせて検討している。参加者はEcoバイク『旅チャリ』通勤を行った際、事前に登録したfelica対応携帯電話、ICカードを使い、移動距離を記録する仕組みとなっている。その記録の通勤回数、移動距離に応じてエコマイルが加算出来るシステムを作った。到達マイルに応じて特定の(株)JTB首都圏店頭での旅行商品割引が受けられるようにした。

9月1日の実験開始から約4週間が経過したが、最も移動距離の多い人で既に200km、全CO2削減量も34kgとなっている。参加者は熱心に取り組んでいるようだ。

今後は、この実験結果を基に日本中へEcoバイク『旅チャリ』通勤の輪を広げていきたいと思っている。また、マイカー通勤から電動アシスト自転車への置き換えだけではなく、電車やバスなどの公共交通機関、そして通常の自宅にある自転車の利用等、様々な形でのエコ通勤への取り組みも積極的に行いたいと考えている。



Ecoバイク『旅チャリ』がずらりと並び、株式会社オキナヤ本社。株式会社オキナヤではエコ通勤社会実験に参加していることをアピールするため、本社玄関前にEcoバイク『旅チャリ』を停めている。



実験に活用している電動アシスト自転車(Ecoバイク『旅チャリ』) 参加者へEcoバイク『旅チャリ』を貸与



社内に設置した記録用端末。参加者は出退社時に携帯電話やICカードで通勤記録を行う。



参加者は自分の携帯電話で移動距離やCO₂削減量が確認出来る。